

2013年3月28日

株式会社アネロファーマ・サイエンスによるビフィズス菌抗がん剤 APS001F の 米国での臨床第1相試験の開始について

株式会社産業革新機構（以下「INCJ」）（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 能見公一）の投資先である株式会社アネロファーマ・サイエンス（以下「アネロファーマ」）（東京都中央区日本橋兜町、代表取締役 三嶋徹也）は、この度、開発中の新規抗がん剤 APS001F（ビフィズス菌を用いたドラッグデリバリーシステムを活用した薬剤）の臨床第1相試験を米国において開始しました。

INCJ は、非臨床試験および Phase I / II 試験（薬剤の安全性、忍容性および有効性を検討するための臨床試験）の円滑な推進のため、アネロファーマに対し合計 28.5 億円を出資しております（2010年11月1日および2012年2月20日付ニュースリリース参照）。

昨今、効率的な臨床開発をめざし、米国で臨床試験を実施する事例が増えていますが、一般に経営基盤の弱いベンチャー企業が単独で米国にて臨床試験を行うことは必ずしも容易ではありません。特に前例のない革新的な医薬品の場合はなおさらです。

今般の臨床第1相試験の開始は、アネロファーマが開発する APS001F の上市に向けた目的意識を共有する学界の全面的な協力体制、治験担当医師等との粘り強い対話、これらを束ねる適切な経営管理体制といったアネロファーマの自助努力と、アネロファーマの活動およびガバナンス体制を評価した INCJ の出資による十分な資金的裏付けにより実現に至ったものです。

この臨床試験では、進行性や転移性の固形がん患者を対象に実施され、APS001F の安全性および認容性の検討ならびに、臨床第2相試験の推奨容量を決定します。また、同時に APS001F の抗腫瘍効果の検討を行います。なお、当該臨床試験は、これまで複数名の患者登録が行われており、既に進行しています。臨床試験は、当初、米国の治験実施施設1ヶ所で開始し、段階的に参加施設を増やす予定です。

INCJ は、今後とも適切なガバナンスを前提にした大学発技術と製薬企業の医薬品開発におけるオープンイノベーションを推進するとともに、日本のバイオベンチャーに対する資金供給の呼び水となり、日本における創薬の再活性化を目指します。

株式会社アネロファーマ・サイエンスについて

株式会社アネロファーマ・サイエンスは、2004年8月に設立され、「嫌気性 (anaerobic, アネロ)」をキーワードに、現在の医療では治療が極めて困難ながん(再発・転移性)も含めた幅広い種類のがんに適応でき、かつ副作用の少ない抗癌剤の開発を目指しています。株式会社アネロファーマ・サイエンスについての詳細は <http://www.anaeropharma.co.jp/> をご参照ください。

会社名 : 株式会社アネロファーマ・サイエンス

設立 : 2004年8月9日

所在地 : 東京都中央区日本橋兜町 19-8 八重洲 KH ビル 4F

代表 : 代表取締役 三嶋徹也

資本金 : 1億円 (2013年3月25日現在)

従業員 : 20名

株式会社産業革新機構 (INCJ) について

INCJ は、2009年7月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約2兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施致します。

INCJ では、これまでに合計37件・総額約6000億円の投資決定を発表しました。当面、環境エネルギーにも関連するエレクトロニクスやITの分野、バイオ・ライフサイエンス分野、水ビジネス等インフラ関連分野などにおいて、知財ファンドによる先端的な基礎技術の事業展開、ベンチャー企業等の事業拡大、技術等を核とした事業の再編・統合、海外企業の買収等による積極的な海外展開などに対してハンズオン投資を行って参ります。

(本発表資料のお問い合わせ先)

(株) 産業革新機構 企画調整室 市原・小林・望月

東京都千代田区丸の内1-4-1

丸の内永楽ビルディング21階

電話 : 03-5218-7200 (大代表)